

## 第2回庄原市長期総合計画審議会専門部会(総務財政部会) 会議録(摘録)

1. 開催日時 平成27年7月6日(月) 10:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第2委員会室
3. 出席委員 秋山 愿 委員 ・ 積山 豊通 委員 ・ 藤谷 善久 委員  
小林 護 委員 ・ 早井 千波 委員 ・ 山岡 芳晴 委員  
手島 亜希 委員
4. 欠席委員 堀江 勝 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫  
企画課企画調整係長 加藤 武徳  
企画課企画調整係 本郷 明宏  
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 山陽新聞東城支局 支局長 南山 晴雅
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第2回庄原市長期総合計画審議会専門部会（総務財政部会） 次第

平成27年7月6日（月）10：00～  
庄原市役所 本庁5階 第2委員会室

### 1. 開会

### 2. 議事

- ・基本構想(素案)について 資料1 資料2 資料3
- ・基本理念および将来像について 資料4

### 3. その他

- ・次回専門部会開催日(予定)について  
日時：平成27年8月31日(月) 14：00～  
場所：庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室

### 4. 閉会

## 会議経過

### (1) 開会

### (2) 議事

- ・基本事項について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：第2節のなかで「本市を取り巻く社会背景」とあるが、日本全体の社会背景についての記述となっているため、項目を「日本を取り巻く」に修正したほうが良いように思う。

また、4頁の人口減少社会の到来のなかで「消滅の可能性がある」と報じました。」との記述があるが、「消滅の可能性がある。」との提言が行われています。とした方が良いように思う。

14頁の世帯数の推移については、少しずつでも減少しているため、「概ね横ばいで推移しています。」ではなく「漸減傾向で推移しています。」との表現が良いと思う。

事務局：第2節のタイトルを「我が国の社会情勢」に修正することとしたい。

委員：49頁の市民視点での人口減少の要因について、「教育環境の充実や関係施設の整備が十分でない。」との記述があるが、必ずしもそうとは言い切れないと思う。広いグラウンドの使用やプールの利用も可能であり、また、学校の先生との連携も細かくとれるため、「十分でない」との表現は見方が一方的であるように感じる。

- ・基本構想について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：11頁の「すべての区域を対象に同じ対応をすることは困難です。」の、「困難です」という表現を「困難と思われます」や「非常に厳しい状況です」等、やわらかい表現に変更してほしい。

委員：「さとやま」の表現が第1期では「さとやま」となっているが、第2期では「里山」となっている。何か意図や思いがあるのか。

事務局：建設計画を策定した際に、里山は平仮名で使われた。当時言葉の認知がされておらず、「里」と「山」のように狭い意味にとらえられることから「さとやま」と平仮名表記にしている。しかし、10年経ち、「さとやま」の意味も市民に浸透してきたため、本来の「里山」という漢字表記に戻したいと考えている。

委員：「里山拠点区域」の方向性で、「住民ニーズに応じた拠点機能の強化を検討します。」と結んでいるが、他は「整備に努めます。」等となっている。里山拠点区域だけ10年間検討して終わるのか？

事務局：市がやるというよりは、市民の意見を聞き、検討していくことを表現している。

委員：「検討し取り組みます。」と変更してはどうか？

事務局：そのように修正する。

委員：交流人口では、「北部地域を特に開発するための道路」という言葉が、全体的な交通網の整備としてまとめられたので良いと思う。

委員：12ページの桜の木をイメージした、「満開の桜型」未来都市は、桜のようにはらはらと散ってしまう印象を受ける。この表現が良いものかどうか疑問である。

事務局：これはまだ提案している段階で、内部でも抵抗がある。もとは1つの桜で、その中で各地域があり、その先に自治振興区がある。これら全部が一体的な市を構成しているというイメージである。「虹」等の表現はどうか？という意見もあり、ここでの表現・言葉はまた事務局で検討したい。

委員：交流人口の増加が大事になってくるこの時代だが、年間282万人以上の維持を目標として設定した根拠について教えて欲しい。

事務局：本市の観光振興計画では、平成30年の目標交流人口を282万人と設定しており、この伸びは県の計画の伸びと合わせた設定となっている。平成26年の

総観光客数がやや減少していることと、日本全体での人口減少を勘案すれば、まずは282万人を達成し、維持していくことが必要であると考えている。

委員：ここは300万人にすべきでないか？

委員：それは現実的ではない。

委員：尾道松江道の影響で交流人口は増加するのではないか？それで目標が達成されるのでは？

委員：他の部会(産業交流部会)で検討してもらえないか？しかし、ここで頑張らなければ庄原市は元気にならない。

委員：ここはもう一度高い目標を設定して挑戦してはどうか。

委員：三次・庄原・世羅で観光関係のネットワークを組んでいるのではないか？そういうネットワークを活用して交流人口を増やしていくのはどうか？

事務局：何が人々の興味をひくか分からない時代であり、交流人口に関しては努力で増やせる可能性はあると思う。ここ数年の観光客数の減少について言えば、備北丘陵公園の影響が大きい。音楽イベントがなくなったため、3万人くらいは減少している。

委員：12頁について、集落が弱体化していく中で、自治振興区で対応ができるものなのか不安に思う。自治振興区の再編が避けられないようになると思うが、そういう方向性も見通せない。

委員：現実には高齢化した振興区もあり、市町村が合併したように自治振興区の統廃合を考えるような表現も必要なのではないか？

事務局：具体的な自治振興区や自治会への支援は、基本計画で内容を整理したいと考えている。また、更に踏み込んだ内容になれば、個別に計画を作って対応していく。

委員：地域づくりは、基本的にその地域の自治振興区や自治会がこれからは取り組んでいくという表現になっている。旧町村から言えば、支所機能を弱体化

するという表現にも受け取れる。

委員：表現については再度検討する。

委員：この部会の一番大事な部分だが、2頁の我々が設定した目標人口と交付税の算定人口との整合性はとれているのか？

事務局：交付税については、平成22年の国勢調査人口をベースに算定されている。再来年度からは平成27年の国勢調査人口で算定されることとなるが、この財政推計は昨年度行ったものであるため、目標人口との整合は図られていない。

委員：庄原市の将来を考え財政計画は考えていくべき。交付税の推移は、財政課でしっかり見込めると思う。

委員：算定基準が変わらない限り、極端に上がったたり下がったりはしないと思う。

事務局：合併当初に予定していた程は下がらない。

委員：交付税の配分は、人口中心での算定ではなく、山林の面積等も考慮した算定が必要でないかと思う。これだけの面積があり、水や空気を生産し、日本の国土を守る庄原市として、交付税はこれだけ必要だと、そういった働きかけをすべきでないか。

事務局：前回もらった意見を踏まえ、目標人口について会長に相談しているが、やはり10%は難しいのではとの意見であった。最終的には2～3%くらいの実現可能どころが良いのではないかと意見をもらっている。

・基本理念および将来像について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：ここでの里山は「さとやま」が良いのではないか。

委員：現在策定中の市民憲章とは整合しているのか？

事務局：整合させたいと思っているが、市民憲章があまり進んでいないと聞いている。

委員：文言が市民憲章と整合するよう内部で調整してもらいたい。

委員：市民憲章やまちづくり基本条例は普遍的なものであるため、そのあたりの整合はもちろん考えなければならない。

委員：将来像は漢字の並びが固い感じがする。「共生」というところの想いは共感できるが、言葉にすると共生が表現できていないと感じる。「都市」という言葉を付けたいのか？

事務局：市の場合は、「～都市」と付くのが一般的である。

委員：前回も都市を付けていたが、庄原に都市を付けるのは違和感がある。市の10年後の将来を考えた時、スイスのように自然豊かで平和で、税金で農地を守るような庄原市になってほしいと思う。

委員：都市に代わる表現があれば一番良いと思う。

委員：都市機能のことを表現していることを考えれば仕方ないと思う。

事務局：前は「さとやま文化都市」としていたが、「里山」「文化都市」なのか、「里山文化」「都市」なのかの議論があった。「里山文化」だったが、その説明が難しくわかりにくかった。答えのない問題のため難しい。

委員：案2～4よりは案1が良い。

委員：案3の里山創生都市が良いと思う。「創生」という言葉は好感が持てる。案1の「共生」も素晴らしいが、新しく創り出す雰囲気が案3にはあって良いと思う。

委員：案にある「好き」というキャッチフレーズは子どもにも分かりやすく良いと思うが、「誰もが」という言葉が固いように思う。例えば、「誰もが」よりは「みんなが」がわかりやすいと思う。「共生」であるなら「みんなが」が良く、「自立」であるなら「誰もが」が良いのでは？

委員：「誰もが」という言葉が固く、少し重いと感じる。

委員：「みんなが」の方が柔らかい。

委員：「好き」という言葉は、子どもから大人まで分かりやすく良いと思う。

委員：県北の山間都市ということを考えると「牧歌都市」など、田舎を売りにしても良いのではないか。

(3) その他

- ・次回開催日（予定）について

(4) 閉会